

カッパースィン®

水和剤

カスガマイシンー塩酸塩	5.7%
(カスガマイシンとして)	5.0%
塩基性塩化銅	75.6%
(銅として)	45.0%
界面活性剤、鉱物質微粉等	18.7%
[ポリオキシエチレンノニルフェニルエーテル (PRTR・1種)]	1.5%

農林水産省登録 第15744号

【毒性】普通物 【有効年限】5年 【包装】100g × 100袋、500g × 20袋、1.25kg × 10袋

●特長

1. 塩基性塩化銅とカスガマイシンの混合剤で安定した効果が期待できます。
2. 2つの有効成分の働きにより、糸状菌および細菌による多くの病害に対して優れた効果を示します。

●適用病害および使用方法

作物名	適用病害名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	カスガマイシンを含む農薬の総使用回数	銅を含む農薬の総使用回数
かんきつ (みかんを除く)	かいよう病	1,000倍	200~ 700ℓ/10a	収穫45日前まで	5回以内	散布	5回以内	—
				収穫7日前まで				
なし	黒星病			収穫後(10月~11月)	2回以内		2回以内	
もも	せん孔細菌病 縮葉病	500倍		開花前まで	3回以内		3回以内	
びわ	灰斑病 がんしゅ病	1,000倍		幼果期まで				
キウイフルーツ	かいよう病 花腐細菌病	500倍		休眠期	4回以内		4回以内 (樹幹注入は 1回以内)	
		1,000倍	発芽後叢生期 (新梢長約10cm)まで					

作物名	適用病害名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	カスガマイシンを含む農薬の総使用回数	銅を含む農薬の総使用回数
いんげんまめ	かさ枯病	1,000倍	100～300ℓ/10a	収穫30日前まで	3回以内	散布	3回以内 (種子粉衣は1回以内)	—
きゅうり	斑点細菌病 うどんこ病 べと病			収穫前日まで	5回以内		5回以内	
すいか	うどんこ病 褐斑細菌病 果実汚斑細菌病			収穫前日まで				
メロン	うどんこ病 斑点細菌病 果実汚斑細菌病			収穫3日前まで				
トマト	葉かび病 輪紋病 疫病 斑点細菌病 かいよう病 軟腐病			収穫前日まで				
ミニトマト	葉かび病 輪紋病 疫病 斑点細菌病 かいよう病 軟腐病			収穫前日まで				
ピーマン	うどんこ病 斑点細菌病 斑点病			収穫前日まで	5回以内		5回以内	
キャベツ	黒腐病 軟腐病 黒斑細菌病			収穫7日前まで	4回以内		4回以内	
セルリー	軟腐病 斑点病				3回以内		3回以内	
ブロッコリー	黒腐病			4回以内	4回以内			
だいこん	軟腐病 黒斑細菌病 ワッカ症			収穫14日前まで	3回以内		3回以内	
ねぎ	軟腐病				2回以内		2回以内	
たまねぎ					5回以内		5回以内	
ごぼう	黒斑細菌病			3回以内	3回以内			
レタス	腐敗病			収穫7日前まで	4回以内		4回以内	
非結球レタス	斑点細菌病							
なばな類	黒腐病			収穫14日前まで	3回以内		3回以内	
にんにく	春腐病			収穫7日前まで	5回以内		5回以内	
ばれいしょ	軟腐病				3回以内		4回以内 (種いも浸漬は1回以内、植付後は3回以内)	
	疫病	800倍						

作物名	適用病害名	希釈倍数	使用用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	カスガマイシンを含む農薬の総使用回数	銅を含む農薬の総使用回数	
てんさい	褐斑病	800～1,000倍	100～300ℓ/10a	収穫7日前まで	5回以内	散布	5回以内	—	
		200倍	25ℓ/10a						
	斑点病 斑点細菌病	800倍	100～300ℓ/10a						
あずき	褐斑細菌病 茎腐細菌病	1,000倍		収穫30日前まで	3回以内				3回以内 (種子粉衣は1回以内)
にんじん	黒葉枯病 軟腐病 斑点細菌病	1,000倍	100～300ℓ/10a	収穫14日前まで	2回以内				2回以内
オクラ	葉枯細菌病			収穫開始7日前まで	3回以内		3回以内		
メキャベツ	黒腐病			収穫21日前まで					
とうがらし類	うどんこ病 斑点細菌病 斑点病			収穫前日まで	5回以内		5回以内		
茶	輪斑病 赤焼病	500～1,000倍	200～400ℓ/10a	摘採14日前まで	2回以内				2回以内
	新梢枯死症 (輪斑病菌による) 褐色円星病 炭疽病								
ばら	うどんこ病	1,000倍	100～300ℓ/10a	発病初期	6回以内		6回以内		
ほおずき	軟腐病 斑点細菌病								
ゆり	軟腐病								
たばこ	疫病							100～180ℓ/10a	収穫10日前まで

(令和4年5月11日現在の登録内容)

●効果・薬害等の注意


- 使用量に合わせて薬液を調整し、使いきる。
- 散布液調製後はそのまま放置せず、できるだけ速やかに散布する。
- 石灰硫黄合剤などアルカリ性薬剤、チオファネートメチル剤との混用はさける。

- 本剤は無機の銅を含むため、うり類、レタス、非結球レタス、だいこんに対して薬害を生ずるおそれがあるので、下記の事項に十分注意する。
 - ①幼苗期又は生育の初期は特に生じやすいので、中期以降の散布にする。
 - ②高温時の散布は症状が激しくなることがあるのでさける。
 - ③連続散布すると葉の周辺が黄化したりすることがあるので過度の連用をさける。
 - ④炭酸カルシウム剤の所定量の添加は、薬害軽減に有効であるが、収穫間際には収穫物に汚れを生じるので留意する。
- てんさいに使用する場合、薬害を生じるおそれがあるので所定の希釈倍数を厳守する。特に高温時には薬害を生じやすいので朝夕の涼しい時に所定範囲の低濃度で使用する。
- ばらに使用する場合、葉に散布液の汚れが残ることがあるので注意する。
- かんきつに使用する場合、薬害(スタメラノーズ)の発生を防止するために、炭酸カルシウム水和剤を加用する。特に果実の着生期の使用では厳守する。
- ピーマンのうどんこ病防除に使用する場合、発病後の散布は効果が劣るので、初発生をみたら直ちに散布する。
- 核果類(ももを除く)、れんこん、はくさい等には薬害を生じるおそれがあるのでかからないように注意して散布する。
- キャベツに使用する場合、品種、作型により薬害を生じるおそれがあるので、炭酸カルシウム水和剤を加用する。
- いんげんまめ及びあずきに使用する場合、高温時の散布は薬害を生じるおそれがあるのでさける。
- 本剤を発芽後のキウイフルーツに使用する場合、葉に軽い薬害を生じることがあるが、実用上の問題はない。但し使用時期が遅くなると葉や果梗に実害を生ずるので使用時期を厳守する。
- びわに使用する場合、果実に薬害を生じるおそれがあるので、幼果期(果実の横径約1cm)以降の散布はさける。
- ももに使用する場合、開花前までに使用する。開花期以降は銅による薬害が生じることがあるので散布しない。
- ブロッコリーに使用する場合、生育抑制や葉縁の黄白化等の薬害を生

じるおそれがあるので、所定の希釈倍数を厳守する。

- みずかけな(水掛菜)に使用する場合は、散布後少なくとも7日間は落水、かけ流しはしない。
- にんにくに使用する場合、葉に薬害を生じることがあるので、高温時(6月以降)の多数回散布はさける。
- てんさいに対して希釈倍数200倍(使用液量25ℓ/10a)で散布する場合は、少量散布に適合したノズルを装着した乗用型の速度運動式地上液剤散布装置を使用する。
- 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用する。なお、病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

●安全使用上の注意

- 誤飲などのないよう注意する。誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせる。
- 本剤は眼に対して強い刺激性があるので、散布液調整時には保護眼鏡を着用して薬剤が眼に入らないよう注意する。眼に入った場合は直ちに十分に水洗し、眼科医の手当を受ける。
- 漏出時は、保護具を着用し掃き取り回収する。
- 移送取扱いは、ていねいに行う。

魚毒性等…河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用する(魚類、甲殻類、藻類)。

散布後は水管理に注意する。

散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さない。また、空袋は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理する。

保管…密封し、直射日光をさけ、食品と区別して、冷涼・乾燥した所。
火災時の…火災時は適切な保護具を着用し、水・消火剤で消火に努める。
措置